



大府ため池考① 八ツ屋の大池

大塚 裕昌（共西町）

大府には数多くの池があります。

皆さんが住んでいるあたりでも、5分も歩いたら、1つくらい池に出会うのではないのでしょうか。大府には大きな川がないので、昔、大府に住み着いた人たちは、雨水を貯める池「ため池」を造りながら開墾していったのです。大府市誌近世村絵図集（天保12年、1841年頃の資料に基づく）によると、123カ所のため池の記載があります。

こうしたため池も、時代とともに、新しい姿に変わってきています。以前は埋め立てて、大府市役所をはじめ、学校や公園などの公共施設を建てたりしていましたが、最近では、自然学習施設セレントナのある二ツ池（横根町）、ハストスイレンで市民の憩いの場となっている星名池（北崎町）、「蜻蛉の会」による水質浄化活動で有名な新池（若草町）のように、新しい役割を担ったものも見られるようになりました。今回私は、これから姿を変えようとしている八ツ屋の大池（共西町）について、八

ツ屋地主会会長の深谷秀雄さんにお話を伺い、ほんの少し、ため池の歴史を振り返ってみることにしました。

大池は、共和の八ツ屋地区にあって、そこからの用水は、「大池がかり」と呼ばれ、全長約1km、共和橋（共和町）の辺りで鞍瀬瀬川に流れ込んでいます。かつては、その間に広がる田畑に、細かく巡らされた支流が、水を供給していました。大池と用水の管理は、その水を利用している人たちが共同で行っていたそうです。最近でもその名残として、年に1回用水の清掃を行っています。

深谷さんが子どもの頃には、大池は八ツ屋地区の水泳の教練所になっていて、子どもたちは皆、ここで泳ぎを覚えていたようです。池の周囲は松林で、池に張り出した1本の大きな松が飛び込み場所だったので、この松林は、戦時中に油をとるため供出され、戦後桜が植えられました。冬場には2〜3年ごとに水を抜いて、コイなどの魚を捕まえたりもしていたそうです。水門も今とは

違っていて、水路につながっている縦管にいくつか穴を開け、栓をしたもので、水を流す時には、潜って栓を抜いていました。水門は2つあり、水位の上の方にある水門は、普段自由に使えますが、下の方にある水門は池守（いけもり）という、最終的な権限を持った人しか扱えないものでした。こうして、水による争いを未然に防いでいたようです。

こんな大池に転機が訪れたのは、愛知用水ができ、田んぼが宅地化してきた、昭和30〜40年頃でした。ため池は、その土地で生活する人たちにとつては、運命共同体のシンボルのような存在でしたが、水が安定供給され、農業に従事しない人たちも増え、普段の生活から切り離された存在になっていきました。

現在、大池では、区画整理によって、池の約半分を埋め立てて公園と道路にしようという計画が進んでいます。深谷さんの思いは、これを機会に、まず池をきれいにし、訪れた時に、フツと心に染み入るような公園にしたいというものでした。街は「いきもの」です。変わらないうことは

ありません。大池も、この土地に生きようという意思を持った人たちによって造られ、大切にされてきました。だからこそ、多くの思い出話があるのだと思います。大池が、大池らしい姿を保った公園になって、昔から住んでいる人たちが、新しく住みはじめた人や子どもたちに、昔の大府の姿を語る場になり、そこからまた新しい思い出話が生まれていったらいいな・・・と思います。あなたの街の、ため池についての思い出話をお聞かせください。

●情報課 ☎（45）6214



堤防の改修工事のため水のない大池（昭和初期に池の西側から撮影）